

文化庁×九州大学共同研究チーム

新たな価値が社会をつくる一人ひとりの声が重なり

SOCIAL INCLUSION × CULTURE AND THE ARTS

やってみよう! 評価でひらく "社会包摄×文化芸術" ハンドブック

文化庁×九州大学共同研究チーム



人ひとりの声が重なり 新たな価値が社会をつ

目次

文化事業の評価が有意義なものになるかどうかは、評価に「柔軟に」アプローチできるかどうかで決まります。一般的な評価のテキストには、最初に事業の目的・目標を定め、それらが達成されたかどうかをチェックする道筋が書かれています。 手軽な料理のレシピや組み立て家具のマニュアルのように、説明された手順に従っていきさえすれば、うまくできるかのような印象を受けます。

しかし文化事業では、長期的な目的は変わらなくても、短期的な目標は途中で変更されることがあります。また、社会包摂につながる芸術活動では、最初に目標設定すること自体が難しい場合も少なくありません。こうしたケースでは、事業の目標設定と評価の対象設定を柔軟に調整しながら、事業と評価を進めていくプロセスが必要になってきます。

本ハンドブックでは、そうした柔軟なプロセスを可視化しようと努めました。 冒頭のワークシートは、一般的な評価のテキストに比べると、少し複雑に感じられるかもしれません。しかしこれは、評価を有意義に活用しながら文化事業を行なっている人たちの手順を再現したものです。今回のハンドブック制作では、この流れを整理するのにもっとも時間と労力を費やしました。ぜひご活用いただき、改善が必要な点などありましたら、ご指摘いただけるとうれしく思います。

本ハンドブックは、『はじめての"社会包摂×文化芸術"ハンドブック』、『評価から みる"社会包摂×文化芸術"ハンドブック』の続編にあたります。他の2冊も適宜 参照しながらご活用いただければ幸いです。

文化庁 × 九州大学 共同研究チーム 研究代表者 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 中村 美亜

2	はじめに
4	ワークシート
11	○1 文化事業ならではの評価
23	02 のぞいてみよう!評価のプロセス
35	03 4つのケーススタディ
65	○4 「対話」からはじめる評価の一歩
79	有識者委員リスト、インタビュー協力者
80	参考資料
82	おわりに
83	研究メンバー



このハンドブックは、ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、 より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。

2

WORK SHEET

このワークシートは、文化事業を評価する見通しを立てるための書き込み式のワークシートです。 文化事業にかかわる多様な人たちと一緒に対話しながら考えてみましょう。 すでに事業をはじめている場合も、もう一度考え直すために活用しましょう。

01 WORK SHEET

評価設計のためのワークシート

目的・目標を明確にしよう

[参照] 第1章(P.14-16)

評価をするために、文化事業の目的・目標を言葉にしましょう。 「いきなりそんなことを言われても…」と思うかもしれませんが、いったん書いてみること が大事です。

評価する対象となる文化事業タイトル:

- 文化事業を通じて達成したい、社会の変化は?
 - 例) 認知症の方の「その人らしさ」が尊重される社会になる
- 文化事業を通じて今年達成したい、具体的内容は?(目標)
 - 例) アート活動を通じて、その人らしさが出てくる状態が生まれる

目標は、「芸術的価値」と「社会包摂的価値」が重なるところ(下図参照)に設定することが 大事です。評価に適した目標設定にするために、下記のことに気をつけてみましょう。

芸術的価値

BEFORE

BEFORE 参加者がアートのおもしろさを理解する

評価のイメージが湧きづらい

社会包摂につながる芸術活動の価値

社会包摂的価値

AFTER

アートを通じて、参加者それぞれがおもしろい と感じるポイントの違いを互いに理解する



「芸術活動によって直接変化が生まれること」にフォーカスして目標が 設定されていますか?



目標達成の手段や、達成されたときのイメージは具体的になっていますか?

ワークシートはこちらからダウンロードできます。 プリントアウトしてご活用ください。

http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/publications.html

02 WORK SHEET

評価設計のためのワークシート

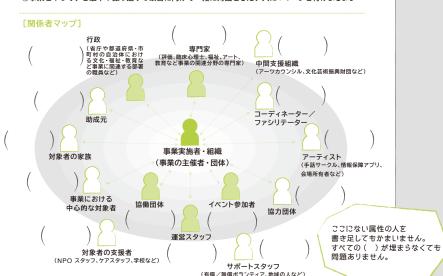
関係者を書き出そう

[参照] 第2章/第4章



今回の事業を行うにあたって、関係者を書き出してみましょう。関係者を書き出すことで、 誰とのコミュニケーションが足りていないか、今後どのようなコミュニケーションをとれば いいのかが見えてきます。

- ①関係者マップに、思い浮かぶ名前や団体名を書き出しましょう
- ②すでに話せている人は実線でつなぎましょう
- ③変化を測るうえで、もっと声を聞いたほうがいいなと思う人には★マークを付けましょう
- ④事業をやっている最中や振り返りで改善に向けて一緒に対話をしたい人に♥マークを付けましょう



左のワークシートで書いた「目標」と関係者マップを見渡しながら、チェックしましょう。



目標

目標を達成するために必要な関係性がそろっていますか? →事業の関係者たちと話しあってみましょう。



目標には、ここに書かれている人たちの主なニーズが反映されていますか? →できていなかったら目標をもう一度関係者と振り返ってみましょう。

4

心者にもやさし

1"11 <



03 WORK SHEET

データ収集のためのワークシート

どんな記録が必要か書き出してみよう

[参照] 第3章/第4章



- 事業では、何を記録として残すか考えてみましょう。
- ●普段、事業を行う際に記録しているもの、記録できそうなものを丸で囲みましょう。

活動日誌 議事録 イベント記録 写真・動画 アンケート インタビュー 広報媒体 メディア掲載 参加者や地域の人からの声 作品のアーカイブ そのほか()

- ●記録しているもののうち、変化を知るために有効なデータを考え、メモしましょう。
- 例)・活動日誌やインタビューなどに出現するキーワードの頻度・参加者や地域の人から聞かれた変化をあらわすユニークなエピソード

- ●新しく記録を取りたいと思うものはなんですか?
- 例)・写真だけではなくイベントのはじまる前や終了後の参加者の様子をふくめ、動画を撮る ・特に表情の変化に注目して写真を撮る
 - ・参加者の作品をアーカイブする



けっこう使える記録が 手元にあった。 よかった… 記録する上で、活動団体だけで できないものは専門家に依頼しましょう。





04 WORK SHEET

http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/publications.html

データ収集のためのワークシート

いつ誰とどう記録をとるか計画を立てよう

[参照]



いつ、誰とどのようにデータ収集を行うか、計画を立てましょう。 事業の流れにそって具体的に考えてみましょう。

第3章を参考にしながら書いてみましょう。



05 WORK SHEET

データ収集のためのワークシート

振り返ろう

[参照] 第3章/第4章



(自分の団体以外の)誰と振り返るか、関係者マップを見返しましょう。 記録を参考にしながら事業を振り返りましょう。

- ●実施前と比べて、どんな変化がありましたか?
- 例)認知症の方のその人らしさが、ワークショップの中ででてきて介護者も家族も驚いた。
- ●参加者や関係者からの声で印象的だったことを書き出してみましょう。

■社会や資金提供者へアピールしたいことは?

●今後の改善ポイントは?

参加者からの言葉や、振り返りで 出てきたポイントを、アドボカシーや 新たな指標設定に活かすといいでしょう。

06 WORK SHEET

成果を発信するためのワークシート

報告のための下準備をしよう





報告書は、誰に向けて、何に焦点をあて、どういう流れで伝えるとよいか、話しあいましょう。

●どの媒体で報告しますか?丸で囲みましょう。

 資金提供者への報告書
 オリジナルの報告書(冊子)
 WEBサイト

 そのほか(
)

- 媒体別にそれぞれこのワークシートをコピーや印刷して下記の質問を考えましょう。
- 誰に伝えたいですか?

´ 例)参加したかったけどできなかった人、これから同じような活動しようとしている人

一番伝え友い人に 伝わることを 最優先しよう

●何に焦点をあてて伝えますか?

例)参加者の変化、連携団体の広がり、予想しなかった成果など。

●伝えるうえで工夫できることを書き出してみましょう。

例)報告冊子に、参加者の笑顔の写真を多めに載せる

WEBサイト等で報告がうまくできると、 広報や次の活動につながりますよ。



10~81ページは非公開になっています。ハンドブックに掲載されていた内容を改良し、書籍『文化事業の評価ハンドブック 新たな価値を社会にひらく(SAL BOOKS 3)』に掲載しています。

書籍の情報はこちらです。

http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/publication/salbooks3/

「評価は他人のためではなく、自分のためにするものだ。」

これが、今回のハンドブック制作を通して痛感したことでした。評価というと、テストの採点のように、「事後に先生がチェックする」という点が強調されがちですが、大切なのは、「チェックの結果を生かして、勉強方法を改善する」という部分だということです。

実際調べていくと、評価と事業が一体的に行われているところは、評価も事業もうまくいっていますし、両者が切り離されているところは、どちらもうまくいっていません。 自分のために評価をすることができれば、事業内容がよくなるので、結果的に社会的な評価もあがります。考えてみれば当然ですが、どうしてもこの点が忘れられがちです。

その理由は主に二つあります。一つは、評価に対する思い込みがあるからです。これ についてはハンドブックで詳しく見てきました。もう一つは、こちらはハンドブックであ まり扱えなかったのですが、行政などの資金提供者側の事業設計に問題があるからです。

補助・助成・委託などの事業設計も、文化事業の価値や社会包摂につながる芸術活動の可能性を深く理解した上で、かつ、現実のニーズや状況を踏まえた上で丁寧に立案されなければなりません。また、評価を活用することで、よりよい事業設計へと改善していく必要もあります。ところが、こちらの設計や評価がうまくいっていないケースが少なくないのです。これは今後の課題です。

『"社会包摂×文化芸術"ハンドブック』シリーズは、本編で完結となります。これまで 多方面より多大なご支援ご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。ありがとう ございました。

> 文化庁×九州大学 共同研究チーム 研究代表者 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 中村 美亜

文化庁×九州大学共同研究チームのメンバー

文化庁

朝倉由希 文化庁 地域文化創生本部 総括・政策研究グループ 研究官 才寺篤司 文化庁 地域文化創生本部 総括・政策研究グループ 上席調査役 白子なつ子 文化庁 地域文化創生本部 総括・政策研究グループ チーフ

九州大学ソーシャルアートラボ

中村美亜 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授[研究代表者、第1章・第3章執筆担当] 長津結一郎 九州大学大学院芸術工学研究院 助教[第2章執筆担当] 村谷つかさ 九州大学大学院芸術工学研究院 学術研究員[第4章執筆担当] 南田明美 日本学術振興会 特別研究員(PD・九州大学芸術工学研究院)[第3章執筆担当]

アドバイザー

大澤寅雄 (株)ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員 宮田智史 NPO法人ドネルモ 事務局長[編集担当]

事務局

櫻井香那 NPO法人ドネルモ スタッフ [第3章執筆・編集担当] 渡邊めぐみ NPO法人ドネルモ スタッフ [ワークシート設計・編集担当]

82



やってみよう! 評価でひらく "社会包摂×文化芸術" ハンドブック 一人ひとりの声が重なり 新たな価値が社会をつくる

発行日 2021年3月25日

編 文化庁×九州大学 共同研究チーム (研究代表者 中村美亜)

執筆中村美亜、長津結一郎、村谷つかさ、南田明美、NPO法人ドネルモ

編集 NPO法人ドネルモ

デザイン 長末香織

発行 九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ

〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1

http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/

- ・本ハンドブックは、文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業「文化芸術を通じた社会包摂のための事業評価 ハンドブックの作成」の研究成果に基づいています。
- ・本ハンドブックの PDF版は、以下のURLよりダウンロードできます。 http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/publications.html
- ・視覚障害、識字障害、上肢障害などの理由で本ハンドブックのテキストのデータなどの提供をご希望の方は、sal-cul@design.kyushu-u.ac.jpまでご相談ください。全てのご要望にはお応えできない場合もございますが、可能な範囲で対応いたします。
- ・本ハンドブックは、非営利目的に限り、出典を明記することを条件に利用(転載、コピー、共有等)を許可します。

©2021 文化庁×九州大学 共同研究チーム